

金剛刊印

金

2月の銅スクラップレポート及び3月の見通し
予測レンジはLMEが7800-8200ドル、建値は760-820円

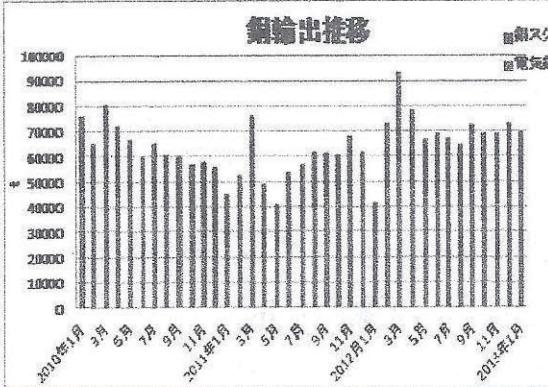
橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

■概況：前半はスペインのラホイ首相の不正資金疑惑に伴う欧州問題懸念やECBドラギ総裁が欧州経済に関して慎重な見方を示すなどの悪材料がでる一方、米FOMCで米経済の足踏みを受けて超低金利と金融緩和政策を当面継続するとのコメント。またオバマ大統領の一般教書演説を受けてNYダウが約5年4ヶ月ぶりに1万4000ドルを超えるなどの強材料が交錯する中、8197ドル（セツル）と12月最終価格より22ドル上げての前半締めとなった。

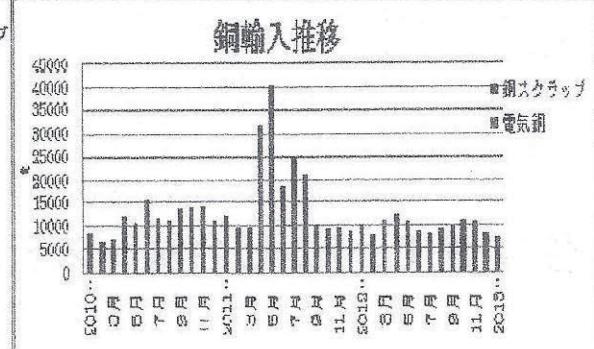
後半はNY連銀景気指標が10.4と2012年5月以来の高水準だったことや2月のドイツZEW指数やIFO指数が上昇するなどプラス材料もあったが、香港当局が不動産融資規制を発表した事、中国の銅の保税在庫が100万トンと2012年の3倍に達したこと、さらに製造業PMI指数が官・民共に予測を下回ったことから春節明け期待が剥がれ落ち暴落。

3月2日現在、前半締めから580ドル暴落の

輸出	1月	2月	3月
電気鋼	4万 052t	4340t	4万 632t
前年比	-8.1%	+20.4%	+65.1%
スクラップ	2万 842t	2万 978t	2万 347t
前年比	+19%	+16%	+74.1%



輸入	11月	12月	1月
電気調	3344 t	2600 t	2123 t
前年比	-26.1%	-26.7%	-43.6%
スクラップ	7321 t	5399 t	5339 t
前年比	+56.9%	+4.8%	-15.1%



7620ドル、建値76万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-9.9%の75万4054台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-12.2%の29万2399台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+5%の6万9289戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出では前年比で電気銅が+65.1%の4万6323トン、スクラップが+74.1%の2万3477トン。輸入では電気銅が前年比-43.6%の2123トン、スクラップが-15.1%の5339トン。ま

	11月	12月	1月
生産台数	76万7530台	79万2258台	75万4054台
前年比	-8.4%	-17.2%	-9.9%
	12月	1月	2月
製造台数	21万4429台	22万9083台	29万2399台
前年比	-3.4%	-12.9%	-12.2%
	11月	12月	1月
新設住宅着工数	8万145戸	7万5944戸	6万9289戸
前年比	+10.3%	+10%	+5%
輸入	11月	12月	1月
電気原	3344t	2600t	2123t
前年比	-26.1%	-28.7%	-43.6%
スクランプ	7321t	5899t	5339t
前年比	+56.9%	+4.8%	-15.1%

た前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-5.3%の5万6690トン。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)では前年比-2.7%の5万4300トンであった。

■見通し:2月は、イタリアのモンティ首相率いる与党が上院で過半数議席を取れなかつたことによる政局不安が台頭。総選挙の可能性も残されているが現政権の緊縮財政が中止になる可能性もあり今後に注目。また3月1日に米「財政の崖」問題で与野党の調整がつかずに強制歳出削減の一部が実行されたものの半分以上は防衛費のためすぐにどうこういう問題でもなくマーケットも反応薄だがこちらも今後の動向に注目。

自動車生産は前年比-9.9%といまだ二桁に近い悪化、販売の方もほぼ前月と同じ減少幅-12.2%とまだまだ減少基調。住宅関連は先月に続き5ヶ月連続増加の前年比+5%(前月比(季節調整済み)-1.9%)の6万9289戸、ただ5ヶ月ぶりに一桁増加に減少。復興需要や消費税アップ前の駆け込み需要など今後の動向に注目。伸銅品生産量は前年比-5.3%の5万6690トンと4ヶ月連続マイナス、前月に続き自動車生産の悪化が原因との見解。銅電線出荷量は前年比-2.7%の5万4500トンと2ヶ月連続マイナス、電気機械・自動車生産の減少幅の拡大が影響したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比+65.1%の4万6323トンと大幅増加。銅スクラップは+74.1%の2万3477トンとこちらも大幅増加した。大幅な円安や電線、伸銅品、板条などの国内生産減少のため輸出に向けられた影響との見解。輸入は電気銅が-43.6%の2123トン。スクラップは-15.1%の5339トン。大幅な円安による割高感や内需の力強さがまだ出てきてないこととの見解。

銅需要に関しては前月に続き円安や株価急騰によりセンチメントは大幅改善されたものの、自動車生産が今だ回復していない事や電気機械、家電等の先行き不透明感、3月決算の影響からメーカー買い気薄。

銅価格に関しては新規材料としてのイタリア政局不安が台頭、モンティ首相率いる現与党が上院で議席を過半数とれなかつた事による緊縮財政の遅れ懸念や「米財政の崖問題」で強制歳出削減の一部が実行など悪材料もあるが政局不安に関しては再選挙の可能性があること、財政の崖に関しては削減の半分が国防費である事からすぐどうこう言う問題ではなく想定内との事からセンチメントがあまり悪化するとは考えておらず上値は8200ドルを予測。下値は中国製造業PMIが官・民ともに予測を下回ったことによる春節明け期待の剥がれ落ちが進むの予測から7800ドル程度になるのでは。銅建値に関しては76-81万円程度と予測。

企業

日鉄鉱業、太陽光発電を九州で開始 福岡・長崎の計3カ所の遊休社有地で

日鉄鉱業は現在、北海道虻田郡洞爺湖町にある遊休社有地で出力が約2,000kW(2MW)規模の太陽光発電を開始しているが、同様に九州にある3ヶ所の遊休社有地においても同規模の太陽光発電を計画し、福岡県飯塚市内の2ヶ所と長崎県佐世保市内の1ヶ所で太陽光発電を開始する。

この目的として同社はかねてから休廃止鉱山跡地等の遊休社有地の有効活用を図ってきたが、昨年7月に施行された「再生可能

エネルギー固定価格買取制度」を踏まえ、当該社有地を活用した太陽光発電に取り組む事とし、これにより遊休社有地の管理費用との相殺によるコスト削減が見込まれる。

また、同社は環境保全や地球温暖化防止に貢献すべく、他の遊休社有地についても太陽光発電への活用を検討し、また平成25年3月期及び来期以降における同社連結及び単体の業績に与える影響は軽微であるとした。

住友電工、テレビ会議システム「TVcation」を販売開始 インターネット回線で海外とも接続可能

住友電工は独自技術のAdaptive-LRR・

Technologyにより、パケットロス耐性を20%ま